

75周年実行委員会2009年度経過報告

75周年実行委員会委員長 新庄博志

お題目の通り、まだまだ先だと思っておりました75周年も、来年の秋に迫り、実行委員会もこれから再度鉢巻を締め直し、ラストスパートに入る時節となりました。

平素は学生の活動のみならず実行委員会の活動にご理解いただき、OBの皆さまには、厚く感謝する次第であります。ここまで来たからには、最後まできっちりと完遂させたいと思います。どうぞ、今一度一層のご協力を何卒よろしくお願いたします。

まずは2009年度の経過報告から。

実行委員会は4度開催いたしました。ご承知の通り、今回の新機体導入が年度の最大の関心事でしたので、議論は新機体の導入について、が主要なテーマでした。一方で、75周年の当日にはその先についての方向性がしっかり示せる事が肝要と思っておりますので、部の在り方、OB会の在り方を忌憚なく話し合い、議論を深めました。もちろん今後とも引き続き議論を重ね、何らかの方向性は示していきたいと思っております。

ここ数年、部長先生の御発案で、大津の北小松にありますリトリートセンターで、学生、OBが集い研修や意見交換を催してまいりましたが、本年度は若手OBが中心となって、9月の合宿で飛行会を開催してくれましたので、中止といたしました。リトリートセンターは、現役のみならずOBもリーズナブルに宿泊できますので、関西へお越しの節には是非ご利用ください。

特筆すべきは、昨年来お願いたしておりました「いろいろな同窓会」の開催を、随所で催していただきました。毎年、関東支部の忘年会は私も楽しみに参加させていただいています。関西でも、

世代に分かれて忘年会や新年会を開催していただき、懐かしい顔が揃ったとご報告を頂いております。75周年はいろいろな同窓会の集合体と位置付け、今後とも同世代や、地域や、職域等で規模に係わらず集まっていたきたいと期待しています。普段は翔友会総会の敷居が高い方も、こうした気楽な集いを催すことによって、もう一度航空部や同志社や、グライダーを身近なものにしていただければ幸いです。図らずも、ユニオンも関東支部設立に続き、中部支部も今春設立され、次は九州も、と聞き及んでいます。青春の思い出を分かち合う事は悪いことではありません。

先般の新機体 ASW28 の命名式には、たくさんのOBの顔を拝見いたしました。新しい機体を見てみたい、触ってみたい。これも航空部OBの性でしょう。機体を眺める眼差しは、皆さんあの当時のままでした。多くの方からご苦勞様と声を掛けていただきました。もちろんこれからも購入費用返済のために、募金活動を続けていかなければいけません。今回の新機体導入は75周年の大きな柱ではありますが、記念事業ではありません。あくまでも現役学生が新機体を導入するに際して応分の協力をする、というのが基本趣旨です。我々OBは日頃より学生の実力や、ましてや他校や競技会の分析などを知る由もありません。たまに応援に出かけたときに、耳にする程度です。現役の活動の中で、必要なものを必要なタイミングで揃えるのは、学生やその指導者の責務です。今回我々OBは、監督からの支援要請に基づき、現役強化の一環として、費用負担をいたしました。これこそ正に協働の産物であります。特に学生諸君は平素の活動費、合宿費に加え、大きな負担に

なっていることも十分承知であります。華々しい新機体のデビューに立ち会えることとは裏腹に、厳しい試練をどうか乗り切ってほしいと思います。

この夏までには、75周年当日の会場の確定と、日時の調整をいたします。特に大風呂敷を広げた計画をもう一度精査しないといけません。あえて二重にも三重にも大きく描いた事業計画ですが、適正規模にするのがこれからの仕事です。予算も精査していきます。道中多額のご寄付を頂戴した先輩もおられます。紙面で失礼ではありますが御礼申し上げます。皆さまにおかれても、お手持ちに余裕のある時で結構ですので、どうぞ多少に関わらず、ご寄付をお待ちしております。必ず記憶に残る思い出深い一日になりますよう、仕上げていきたいと思っております。日が確定次第お知らせいたしますので、どうぞ手帳に◎よろしく願いたします。余談ですが、講演をお願いしてあります千玄室氏に、先日ある会合でお会いしたところ、まだまだ意気盛んで、「早く相談に来なさい」とまで仰っていただきました。ご講演の期待も膨むところです。

さて、学生諸君も順調に戦績を積み上げ、成果を重ねてくれています。新機体が入ったことで、今後の学生支援の在り方も、新たな取組みが必要になってくると思います。私見ですが、指導者の育成やその強化という分野には、まだ支援の手立てがありません。全国大会で常時入賞する実力は揃いましたが、いまひとつ抜け出すためには、優秀な指導者を必要とするのは明白です。合宿を支えてくれている教官団にも支援の手立てを打ち、実力を高めてもらい、新たなステップの指導を望むのは私だけでしょうか？

前述しました実行委員会での今後の在り方の検討にも関わることですが、学連の問題も含め、ここ1年勝負どころです。どうぞ、ますますのご協力をお願いいたしますとともに、お体整えていただきまして、元気にお会いできますことを楽しみにしております。

OB 飛行会を開催して

平成20年卒 前田 賢一

2009年9月22日。木曾川滑空場で09年度OB体験飛行会が開催されました。「翔友」に開催案内を同封し、全OBに通知を行いました。どれだけの人数が集まるのか不安でした。しかしふたを開けてみると、5連休の中日ということもあり、いつも合宿に足を運んでくださる方や久しぶりに滑空場へ来られた方、学生の親御さんなど参加者は40名を超え、大盛況となりました。心配された天候も何とか飛行可能な状態まで回復し、雨天中止という最悪の事態は回避することができました。しかし一日中曇り空が続いたため、サーマルが発生する条件にはならなかったことが残念で仕方ありません。

飛行会が始まると、現役の力を借りてゲストフライトをひたすら行い、元気なOBには機体押しも手伝っていただきました。そしてOBの皆様にも「(通称)はし給」で学生と同じ昼食をとっていただきました。フライトは1人1回しかできませんでしたが、フライト前の少し緊張した顔、フライト後の満面の笑みを拝見すると、この飛行会を開催して本当に良かったと感じることができました。私はというと、恐れ多いながらも先輩方の後席に座り、フライトをご一緒しました。上空では久しぶりの景色に感慨深げな方が多かったように思います。グライダーの事をご存じの方ばかりなので、いつも以上に操縦に気を使い、最後の方にはへとへとになってしまいました。

また、夕方から有志OBで買い出しに行っていたが、夜に宿舎前でバーベキューを盛大に実施しました。OBと現役で腹を割った話ができただけではないのでしょうか。

参加された方は気づいたと思いますが、合宿の

風景は常に変化しています。曳航索が鋼索からナイロンロープに替わるという大きな変化が数年前にあり、離脱高度が高くなり、離陸直後の危険性も少なくなりました。また学生の動きも一昔前とは違っていたと思います。そのような現状を多くの方にご理解いただき、幅広い世代がグライダーを前にして交流できたことは非常に意味のあることだったと思います。

そして久しぶりにグライダーに乗った方の中から、社会人クラブで再びグライダーを始める方が出てきてほしいと思っています。同志社航空部OBでグライダーを続けている方は少ない状態です。卒業後にグライダーを続ける人が増えれば、現役が得られる情報量が増え、将来の自分を想像するためにも現役にとってもプラスになると思います。

さて、ここからは私がなぜOB体験飛行会の開催を決意するに至ったかを説明させていただきます。その理由は「現役とOBが現場で交流する場がもっとほしい!」ということです。私は08年3月に操縦教育証明を取得することができ、大阪勤務であることから現役の活動に多く関わっています。しかし、通常はOBと現役が顔を合わせる機会は翔友会総会や75周年会議、全国大会程度です。会議には出席しにくいという方も多くいらっしゃるはずですから、OBと現役の交流は限られたOB、限られた機会のみとなってしまいます。その限られたOBでも、普段の活動をご覧になった方は非常に少なく、もっと現場に足を運んでほしいという想いが以前からありました。

また、平成になって卒業した若いOBと翔友会との繋がりが薄くなってきているという懸念もあります。これは会費の納入率を見ても明らかです。

会費を払うことだけが翔友会員としての役割ではありませんが、翔友会は年間50万円以上を現役に支援金として渡しており、翔友会費の多くが現役援助に充てられていることをもっと知ってほしいと思っています。若いOBこそ活発に現役を支援するような雰囲気がほしい。そのためには若いOBが参加しやすい催しが必要と常々考えていました。

この状況を打開するために出した答えがOB体験飛行会でした。やはり、グライダーのある場所で現役とOBが語り合う場が必要です。そして一緒にフライトし、グライダーの楽しみを共有することができれば…。そんなことが1年に1度くらいあってもいいのではないのでしょうか。

結果的には多くの方に参加いただき、グライダーを前にして現役とOBが交流を持てたことに非常に満足しています。グライダーを続けている方は少ない状態ではありますが、現役、OBともにグライダーにのめり込んだ仲間であり、幅広

い世代が共通の話題の下に集うことができる翔友会は素晴らしいコミュニティだと思います。翔友会がもっと活発になれば、現役活動により影響を与えることは間違いありません。現役を盛り上げるために、OBを盛り上げる。そのためにも頑張っていきたいと思います。

今回が初めての開催だったため不手際も多々あったかと思いますが、実行委員長の水谷先輩(H12年卒)をはじめ、多くのOBの皆様、そして快く引き受けてくれた現役の協力で無事開催できたことに感謝申し上げます。2010年3月に発足した翔友会東海支部とも連携し、恒例行事として2010年度以降も継続していきたいと考えています。次回開催時には新機体ASW28-18の運用が始まっています。平成卒の若いOBにもっと参加いただき、より翔友会を盛り上げていきたいと思えます。皆様のご協力の程、何卒よろしく申し上げます。

エピソード

この飛行会で、昨年早世した故速見直喜の遺骨が、奥様の手で大空に散骨された。故人と親しかったOB有志の世話で、参加全OB、ご遺族、親友の柔道部OB小西様らが見送る中、遺骨は奥様に抱かれて離陸。彼の魂は合宿の度に激励に通った木曾川の空に還っていった。

大好きだった航空部と後輩、これからもその躍進と安全を願って、永遠に合宿を見守り続けてくれることであろう。

僚機に見守られながら飛ぶ速見君のラストフライト、散骨飛行。

